

インフルエンザ HA ワクチンの接種について(説明書)

1. インフルエンザとは

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」に感染して起きます。感染経路は、感染した人の咳やくしゃみのしぶき(飛沫)に含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」と、ウイルスが付着した手で口や鼻に触ることによる「接触感染」があります。通常、初冬から春先にかけて流行します。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通の風邪に比べて全身症状が強いのが特徴です。小児では中耳炎の合併、熱性けいれんや気管支喘息の誘発など、重症化することもあります。

2. インフルエンザ HA ワクチン接種の有効性

予防接種を受けてからインフルエンザに対する免疫がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約 5 か月とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが必要です。

また、インフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するため、毎年流行が予測されるウイルスにあった予防接種を受けておくことが効果的です。

3. インフルエンザ HA ワクチン接種の副反応

予防接種の注射の跡が赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがありますが、通常2~3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

4. 予防接種を受ける前に

(1) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱のある方(一般的に体温が37.5℃以上の場合)
- ②重篤な急性疾患に罹っていることが明らかな方
- ③インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④インフルエンザ予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び、全身性発しん等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ⑤その他、医師が不適當な状態と判断した場合

(2) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、呼吸器系疾患(間質性肺炎、気管支喘息)等の基礎疾患がある方
- ②今までにけいれんを起こしたことがある方
- ③過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ④インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるとされたことがある方

(3) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。また、インフルエンザワクチンの副反応は24時間以内に多く出現するため、この間は体調に注意しましょう。
- ②入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。
- ③接種当日は接種部位を清潔に保ち、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。